

いつか大きなイベントを 日奈久でやりたい

チーム アイラブ
Team I ♥ 日奈久 会長

松本 啓佑 さん (日奈久上西町)



「子どもの頃、地元の祭りは人もお店も多くて、めちゃくちゃ楽しかったんです」。

そう語るのは、日奈久の温泉旅館「金波楼」で専務を務める松本啓佑さん。2年前、日奈久を盛り上げようと地元の仲間と一緒に同年代に声をかけ、日奈久のPRやイベントの企画・運営を行うチームを結成した。その名は「Team I ♥ 日奈久」。若さとそのアイデア力で、チームの活動が日奈久に刺激を与えている。

野球少年だった松本さんは、中学・高校と熊本市内の学校に進学し、寮生活を送りながら野球と勉学に励んだ。その後、福岡で4年間過ごし、22歳で家業の旅館を継ぐことを決意。阿蘇の老舗旅館で2年間修行を積み、25歳で地元日奈久に帰郷した。12年ぶりに帰ってきた松本さんの目に映った日奈久の街は、住む人が減り、祭りの賑わいは幼少期の記憶とは違ったものだった。そんな光景に寂しさを感じていたとき、仲間と語り合う中で「何かしようや」と意気投合した。

チームのメンバーは18人。日奈久在住、在勤、出身者など決まりはない。ただ1つ共通していることは「日奈久を愛

している」ということ。職種も^か花き農家やいちご農家、プロパン販売、旅館経営、竹輪製造販売など多種多様だ。それぞれ繁忙・閑散期が違うため、月1回程度の会議も日程調整が難しい。しかし、いざ集まると和気あいあいとした雰囲気、どんどん意見やアイデアが出るという。「メンバーの何気ない一言がアイデアとなることがあります」と松本さん。母の日にカーネーションを温泉に浮かべて観光客をもてなす「日奈久温泉カーネーション風呂」もメンバーの一言から思いがけず誕生したイベントだという。

大変なのはやはり集客。どうしたら多くの人に日奈久を訪れてもらえるかが課題だ。チームでは「日奈久だけで盛り上がっていても意味がない。市外・県外から多くの人に訪れてほしい」という思いで、イベントやPRなど試行錯誤している。現在、力を入れているのは11月初旬に開催予定の「第3回ラブひな杯タッグレース」。2年前に湯の里日奈久振興会から引き継いだ綱早がけ大会だ。回を重ねるごとに楽しさが増していくよう、工夫を凝らしバージョンアップする予定だ。

いつか大きなイベントをやりたいという松本さんの当面の夢は、丑の湯祭りでの花火の復活。「めちゃくちゃ楽しかったあの頃のように祭りを盛り上げたい」と力を込める。その「楽しかった思い出」を原動力に、松本さん率いるTeam I ♥ 日奈久は活動を続ける。



▲ Team I ♥ 日奈久のメンバー。
日奈久を愛するメンバー募集中



2014.SEPTEMBER No.117

- 3 九月は日奈久で山頭火
- 4 八代演能会
- 5 八代市文化祭
- 6 こども・子育て支援新制度スタート
- 7 こころのSOSサイン
- 8 消費生活トラブル
- 9 地震・津波そのときどうする
- 10 路線バス運行内容の一部変更
- 11 秋の全国交通安全運動
- 12 市職員給与と人事管理の状況
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 24 広告
- 28 まちのわだい
- 31 伝言板
- 32 舟出浮き 秋のキャンペーン

広報やつしろは、市ホームページでもご覧いただけます。

トップページ → 総合案内 → 広報やつしろ